

新聞の魅力と役割訴え

共同授業へプレ対談

本紙と中日編集局長

静岡文化芸術大

静岡新聞社と中日新聞社は6日、2020年4月から静岡文化芸術大(浜松市中区)で共同連携授業を開講するのを前に、プレ対談講義を同大で開いた。静岡新聞社の荻田雅宏編集局長と中日新聞社東海本社の鈴木孝昌編集局長が、報道の役割や新聞の魅力について語った。



報道の役割などについて語る静岡新聞社の荻田雅宏編集局長(左)と中日新聞社東海本社の鈴木孝昌編集局長。6日午後、浜松市中区の静岡文化芸術大

荻田局長はインターネットニュースにはない新聞の特徴に、社説やコラムを挙げた。その上で、「意見を伝えるのは、民主主義の土台となる議論のきっかけをつくるため。民

主主義を支えるのも新聞の役割」と強調した。鈴木局長は自ら取材した香港返還や浜松市の暴力団事務所撤去を求めた住民運動などを紹介し、「歴史を記録するのが新聞の役割。地域の新聞でなければ、住民の営みを書き留めることができない」と語った。

名では真実が分からな
い。人々の生きた記録
を残すことも必要」と
話をした。
連携授業は両社がそ
れぞれ講師を派遣し、
新聞を主な教材にし、
ジャーナリズム論や地域
社会への貢献なども
様々なテーマを取り上げ
る。(浜松総局・佐野由香利)